

年頭のご挨拶

東北地質調査業協会 理事長 早坂 功



新年明けましておめでとうございます。

今年(西暦2012年、平成24年)で、干支は「壬辰(みずのえたつ)」にあたります。「辰」は「絶つ」や「立つ」につながり、「辰年」は、「習慣を絶つ年」や「新しく立つ年」であるともいわれています。昨年3月11日のM9.0と言う巨大地震により発生した未曾有の大災害「東日本大震災」から立ち上がる年、すなわち「復興元年」という大事な年であります。

3.11の巨大地震は、巨大津波を発生させ、2万人にも及ぶ死者・行方不明者を出し、東北から関東にかけての沿岸部に壊滅的な被害を及ぼしました。更に、地震と津波は福島第一原子力発電所を襲い、メルトダウン、水素爆発、放射能汚染という日本史上最悪の原子力事故を引き起こしました。また、この巨大地震とその後の余震は、内陸部での斜面災害、特に団地などの造成地に大きな地盤災害を発生させました。沿岸部では、地殻変動による地盤沈下や液状化現象などの災害も発生しました。

当協会会員企業では、死者もなく、社屋の倒壊や流出もなく、大規模な被害はありませんでしたが、ボーリング機械や車輛の流出、社屋の一部破損、OA機器

の損壊など多くの被害が発生し、更には、会員企業社員の家族や親戚、家屋などに深刻な被害を及ぼしました。当協会では、地震後、直ちに「災害対策本部」を立ち上げ、会員の安否を確認すると共に、災害協定に基づいて宮城県から要請された危険箇所の点検調査(3200箇所)を、宮城県の会員を中心に実施いたしました。

このように、平成23年度の協会活動は、「東日本大震災」に対応したものとなりましたが、従来の活動も積極的に実施しました。東北地整局様との意見交換会はこの1月に行い、当協会の活動状況を紹介したうえで、①地質調査技術の有効活用、②地質調査の適切な発注、③低価格入札、④その他について意見を交わしました。また、「地質調査技士」「地質情報管理士」などの資格試験や講習会も、「若手技術セミナー」、「仙台工業高等学校での出前講座」も従来どおり行うことが出来ました。更に他の協会と合同で、「災害復旧事業講習会」や「独占禁止法研修会」などの講習会も開催し、「みちのくGIDAS」へも積極的に参加致しました。1月には、三協会合同賀詞交歓会更には講師として地整局企画部伊藤友良技術調整管理

.....

官を招いての新春セミナーも行うことが出来ました。

このような中、(社)全国地質調査業協会及び全国の各地区協会からは、多くの暖かい支援を頂きました。全地連から頂いた義捐金100万円は、被災の大きかった福島県、宮城県、岩手県および青森県に寄付金として贈呈致しました。全地連、地区協会更にはジオ・ラボネットワークや(株)ジオ・ビジネスサービスの皆様方から頂いた見舞金総額278万円は、会員へのアンケート調査結果を元に、「宮城県沖地震対策研究協議会」との共催による「東日本大震災に関する技術講演会－巨大地震・巨大津波がもたらした被害と教訓－」の開催(2月)費用に充てたほか、被害の大きかった東北大学総合学術博物館と岩手県立博物館にも寄付いたしました。残りは、今後の防災活動資金と致しました。義援金、見舞金を下された皆様方には心から感謝の意を表し、改めて御礼申し上げます。

「復興元年」である平成24年は、当協会にとっても極めて大事な1年であると思われれます。すなわち、従来から取り組んでいるインフラ整備、自然災害防止、環境問題、資源開発、学問・技術分野など、

更には最近取り組んでいる土壤汚染、メンテナンス手法、地質リスク、ジオパークなどを含めて、今回の災害復旧・復興に向けて、当業界、当協会、当会員がどのような力を発揮できるのかが問われております。「安全・安心で豊かな美しい東北」を目指して、当協会会員の団結の元に技術の革新を図り、一日でも早い復興がなされるように「智恵」を出し「汗」を流していきたいと思っております。